

2015 年度 関西学院大学自己点検・評価

< C 票 > 第三者評価結果 【言語コミュニケーション文化研究科】

教育研究目標 1

1. 6 年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係性 (※ 6 年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか)	
「具体的である」 2 名	<p>左記を選択した理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現行 4 領域の垣根を低くする方向でカリキュラム改訂に取り組むことが目的として示されています。(評価者 B) ・ 関係性自体は、直接的で分かりやすいと思われます。(評価者 C)
「具体的でない」 1 名	<p>左記を選択した理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「6 年後のめざす姿（目標）」の記述は A 票の教育研究目標 1 の設定理由とでもいべきもので、「目標」となっていないように思えます。(評価者 A)
<p>その他気づいた点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラム改編によってどのような学生像を目指すかについて、タイトルや狙いに反映させることが期待されます。(評価者 C) 	
6 年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<p>目標の内容</p> <p>(設定された 6 年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。)</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標としての体裁が整っていないように思えますので、評価不能です。「6 年後のめざす姿（目標）」として、設定し直してはいかがでしょうか。(評価者 A) ・ 研究科が掲げる「人間化の徹底」「実学化への志向」「総合化への努力」「情報化への徹底」「国際化の追求」という 5 つの基本理念を実現するうえで、4 領域間の隔てなく教育を行うことは有効な取り組みです。(評価者 B) ・ 目標の内容自体は適切と思われます。(評価者 C)
<p>評価指標</p> <p>(目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。)</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「6 年後のめざす姿（目標）」がきちんと設定されているとは思われませんので、評価指標、評価尺度が妥当かどうか、判断できません。(評価者 A) ・ 妥当です。これに加えて新カリキュラムへの改定前の段階において、アンケートの実施等により現行カリキュラムの問題点について把握することが望まれます。(評価者 B) ・ 妥当と思われれます。(評価者 C)
<p>目標達成スケジュール</p> <p>(目標達成に向けたスケジュール設定は適切か(長すぎないか、短すぎないか))</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「6 年後のめざす姿（目標）」がきちんと設定されているとは思われませんので、判断できません。(評価者 A) ・ 適切です。(評価者 B) ・ 適切と思われれます。(評価者 C)

教育研究目標 2

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	<u>左記を選択した理由：</u> ・ 教育研究目標2に対して、定量的な目標になっている。（評価者A） ・ 英語教員対象1年制修士学位コースを設置することが目標として示されています。（評価者B） ・ 関係性自体は、直接的で分かりやすいと思われます。（評価者C）
「具体的でない」 0名	<u>左記を選択した理由：</u>
その他気づいた点： ・ コースの設置によって、どのような学生像を目指すかについて、タイトルや狙いに反映させることが期待されます。（評価者C）	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ 妥当、かつ適切であると思われます。また1年制の修士学位コースは意欲的な取組みです。（評価者A） ・ 英語教員のさらなる能力向上を目標に据えた独自のコースを設置することは、研究科の独自性を活かすかたちで教育をするうえで有益です。（評価者B） ・ 目標の内容自体は適切と思われます。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ 妥当だと思われます。（評価者A） ・ 妥当です。（評価者B） ・ 妥当と思われます。（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<u><評価者からのコメント></u> ・ 適切だと思われます。（評価者A） ・ 適切です。（評価者B） ・ 適切と思われます。（評価者C）

教育研究目標 3

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	左記を選択した理由： ・ 入試制度改革と改革後の入学者数が目標になっており、具体的だと思われます。（評価者A） ・ 前期課程入学制度の検討が具体的な目標として示されています。（評価者B） ・ 関係性自体は、直接に繋がっているといます。（評価者C）
「具体的でない」 0名	左記を選択した理由：
その他気づいた点： ・ 入試制度の見直し等によって、どのような学生像を目指すかについて、タイトルや狙いに反映させることが期待されま す。（評価者C）	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸 長させる内容か、②意欲的な取組み 内容であるか、③客観的に見て妥当 であるか、④評価の視点から見て適 切か、等の点から評価を行う。）	<評価者からのコメント> ・ 意欲的な内容であり、まったく問題ないと思われます。（評価者A） ・ 入学定員の充足を目標に据えて、現行の入試制度を検討することは有効な取組み みです。（評価者B） ・ 目標は明確ですが、入試の改善によってどのような学生像を目指すかについて、 もう少し織り込むことが期待されます。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定され た評価指標、評価尺度は妥当か。）	<評価者からのコメント> ・ 妥当だと思われます。（評価者A） ・ 妥当です。（評価者B） ・ 指標は明確です。（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール 設定は適切か（長すぎないか、短す ぎないか））	<評価者からのコメント> ・ 適切であると思われます（評価者A） ・ 適切です。（評価者B） ・ 現状で25名であることから、尺度C、Dが整合しないように思われます。（評 価者C） ・ 尺度と目標値の段階の内容を整合させることが期待されます。（評価者C）